

## VI 臨時的調査研究の概要

本研究への取り組みの可能性を探る予備試験、あるいは情報収集として次の課題を実施した。今後関連する研究への手がかりとなる情報が得られた。

課 題 名	内 容	担 当 者
スギ優良品種「とっとり沖の山」の生育実証試験	「とっとり沖の山」の耐雪性を再評価するため、雪による倒伏角度と成長期後の倒伏角度を在来品種「山本沖の山」と合わせて調査した。その結果、4 年生時点では「とっとり沖の山」は「山本沖の山」よりも倒伏しやすいが、微小に大きな復帰力をもっていることが示唆された。調査年の降雪量が少なかったことと若齢であったことから、今後も継続調査を行う必要がある。	村井 敦史
特用樹木等の効率的増殖方法の検討	トチノキ、クワ、コウゾ、オウレンの増殖技術に関する予備的試験を行った。 トチノキは挿し木が困難な樹種であるが、萌芽枝を用いて薬剤による発根処理を施すことで発根率向上がみられた。クワについて、異なる溶液濃度のインドール酪酸溶液に 24 時間浸漬したところ、溶液濃度 50ppm での成績が良好であった。コウゾについて、異なる溶液濃度のインドール酪酸溶液に 24 時間浸漬したところ、溶液濃度 100ppm での成績が良好であった。オウレンの効率的な採種方法について検討したところ、袋かけを行うことで充実した種子の採種が容易であった。	矢部 浩
樹種別ダボのせん断性能試験	平成 28 年度課題の「ユニット式耐力壁」の性能安定化を図るため、予備試験として、仕様の基本となるダボの強度性能をシラカシ、ケヤキ、ヒノキの 3 樹種で調べた。その結果、シラカシとヒノキは密度と強度性能の相関が高く、品質を安定させるには密度による選別が役立つと考えられた。一方ケヤキは、孔圏道管での割裂が原因で、密度の割に強度性能の低いものが現れるため、強度性能の統計的下限值で管理するのがよいと考えられた。	森田 浩也
ヒノキ単板のサンディング加工による「ぬれ性」改善効果の検証	ヒノキ単板の接着性向上の一助とするため、単板表面のサンディング加工の有無と液体（蒸留水）の接触角の関係について、数種の材種と研磨紙を用いて調べた。その結果、スギ、ヒノキの単板をサンディング加工することで接触角の低下が認められ、ぬれ性を改善させることができた。特にぬれ性の悪い心材での改善効果が期待できる。	川上 敬介